

平成 27 年度 第 9 回栃木県支部 役員会議事録

1 開催日時；平成 28 年 2 月 13 日（土）9：30～12:00

2 開催場所；国際交流協会 研修室

3 出席者；小黒幸一，黒須重富，宮下治，篠原正美，福田一郎，川上寛児，羽山定治，
黒川昌司（記），田仲田喜一郎（日韓会議運営委員長）

委任状；稲葉茂，久芳良則，西谷元則，谷口雅昭，新井達雄，柏崎和久，亀田則男

4 審議事項

(1) 総務委員会

① 事業計画を進める上での委員会開催について（小黒支部長）

- ・ 委員会によって活動状況に差がある。各委員会の活発な活動をお願いする。
- ・ 各委員会のジョイントによる研修会開催を増加して欲しい。
- ・ 今後、埼玉、群馬、茨城支部との連携強化を図るため、積極な情報交換をお願いする。
- ・ 今年度は、本県で第 46 回日韓技術士国際会議の開催が予定されているので、国際委員会を中心に遺漏の無いように対応していきたい。
- ・ 日韓会議開催に当たっては、要員の不足が危惧されるので、精力的に知合いの会員への協力要請を行ってほしい。

② 栃木県支部規則案について（黒須委員長，黒川幹事）

- ・ 委員会の定数を定める条項を設けたい。（委員会議決の要件に関連して）
- ・ 交通費支給の条項、県外で行われる会議等に、支部の代表として出席する場合、委員会が県外で主催する行事に要員として参加する場合に、実費を支給することにしたい。
- ・ 今年度は、日韓会議の準備のため、見学場所の事前調査など、県内での活動においても一定の旅費が伴うことが多いので、その辺も考慮願いたい。（小黒，田仲）
- ・ 本部交流委員会に出席する場合、委員は交通費が本部から支給されるが、田仲会員は支部の日韓会議運営委員長として予算説明などのため、交流委員会に出席しているが、旅費は支給されていないので、支部からの給付を検討してほしい。（福田）
- ・ 日韓会議関係は、特殊なので今年度は、県外の場合は給付することにしたい。（小黒）
- ・ 本部は、顧問・相談役等を設けることができるので、支部長等、支部活動に貢献した会員にたいして支部相談役と云う位置付けでこの条項を設けたい。
- ・ 相談役については、設ける方向で調整していきたい。（小黒）
- ・ 技術部門設置の条項は不要。
- ・ 事務所の共同利用、事務所会議室利用の条項は、不要。
- ・ 3 月末までに案を精査し、役員会に諮ったうえで、本部の内部審査を経、成案としたい。
- ・ 本部の補助は、6 月頃に支給されるので、それまでは繰越金で運営しなければならないので、支出は極力抑え、業務斡旋事業等の収益事業を活発化させ収入を増やしたい。
- ・ 「まちびあ」の賃借料（¥7 万）が、比較的多額なので、作新学院大学など外に安価な場所を求めることも考えていきたい。

③ 栃木県支部名簿について（黒川幹事）

- ・ メールで配布した名簿は、作成中途中の物を引き継ぎ、谷口会員が管理しているメールアドレス等と突き合せ、整理しなおしたものである。
- ・ 今後は、本部のWEB名簿があるので、これを利用したシステムを作って名簿を管理していければ良いと思うが、それには会員各自がWEB名簿の自分の情報をアップデートしておくことが前提である。
- ・ 当面、作成した会員名簿は、個人情報でもあるので、公開はせず、支部に備えて置くこととしたい。（黒須）
- ・ この他、グーグルのグループメーリングもあるので、目的に応じて利用してもらいたい。（黒須）

(2) 企画・研修委員会（宮下委員長）

① 「技術士を志す方への情報提供講座」について（福田）

- ・ 2/17(水) 18:15 県総合文化センター第2会議室において、来年度技術士・士補の受験を目指す人（コンサル、役所、その他民間）を対象に、制度説明・受験体験等に関する公開講座を土木学会・栃木会と共同で開催する予定である。（建設系業界紙2紙に掲載）
- ・ 約30名が参加する予定である。宇大中島教授にコーディネーターを依頼している。
- ・ 講座の時間は約2時間、体験発表者は、26年度合格者3名を予定している。（コンサルタンツ社員、県職員）
- ・ 3/1 合格者発表直後に、本部から試験案内のパンフレットが発行されるので、公開講座は、それが配れる日に設定できれば良い。（田仲）→ 次年度から検討する。
- ・ 支部会員を増やしたいので、そのようなパンフレットは、できるだけ多く関係団体等に配布したい。（小黒）
- ・ 建設系では、今回の催しなども、大学、土木学会支部等を通じ、かなり広範囲に周知を図っているが、他の分野では中々伝え方が難しい。（福田）
- ・ 企業マッチング展示会等様々な機会を利用しPRしていきたい。（篠原）
- ・ 来年度からパンフレット配布の具体的な方法を検討することとしたい。（小黒）
- ・ 小黒支部長は、2/13～23 ミャンマーに赴くので、公開講座での挨拶は黒須委員長が行う。

(3) 地域社会貢献委員会

① ごみ焼却関連の技術者紹介について：久芳(代理黒須)

- ・ 久芳委員長に張要武氏（浙江省科技交流センター）から、ゴミ焼却炉の管理に関する技術支援（技術者派遣斡旋）の要請があったため、久芳委員長から支部としての対応を求められている。（黒須）
- ・ 本件は、当初、昨年11月に菅井会員に要請があったもので、菅井会員から人選を依頼されたため調査したが、県内には対応可能要員は見付からなかった。（篠原）
- ・ 菅井会員から、さらに、本部を通じて全国から人選するよう求められたため、本部に照会したところ、当事者が会員公開名簿から物色するか、案件を本部扱いにするかの方途を示された。
- ・ それを受け、全国から技術要員を物色するのは、支部の業務の範囲を超えると判断し、その旨菅井会員に報告し、本件は収束したと考えていた。

- ・ 本部案件とした場合の対応は、本部から会員にメールで照会する方法になると思われる。
- ・ 菅井会員、須田会員は、支部の業務斡旋事業として、積極的に取組みたい意向であるが、先方からの要求内容は、業務責任も含めて、かなりハードで営利事業として対処すべき案件であるため、支部の事業とするのは困難だと思われる。（支部の業務斡旋事業の有り方を検討する必要がある。）
- ・ 久芳委員長には、別途に要請があったものと思われる。
- ・ 本件は、現在そのままの状態であり、未だ本部扱いにはなっていない。
- ・ 処理方針としては、先ず本部に本部案件となるか否かを打診し、ならないとした場合は、支部として対応できない旨、張要武氏に伝えることとする。
- ・ 本件の処理は、篠原委員長にお願いする。

5 報告事項

(1) 総務委員会（黒須委員長）

① 27年度会計中間報告について

- ・ 現在まで、執行額は、予算額の約半分である。
主な理由；・ 科学技術講演会の講師料が不要となった。（収入（本部補助）も減）
 - ・ サイエンス・カフェに市の補助があったため、予算額が不要となった。
 - ・ 地域防災セミナーは、今年度開催しないので、予算額が不要となる見込み。
 - ・ 県内中小企業活性化交流会経費が未執行である。
 - ・ 日韓会議関係旅費交通費は、今後執行予定である。
- ・ サイエンスカフェ、宮っこフェスタ等の必要経費を支出したい。（小黒）→ 今年度は充足。
- ・ 県内中小企業活性化交流会経費については、今後検討したい。（篠原）
- ・ イベント用のユニフォーム（エプロン、ジャンパー等）を充実していきたい。（小黒）
- ・ ユニフォームの件は、環境支援委員会が、今後検討する。（川上）

(2) 企画・研修委員会（宮下委員長）

① 12月期講演会・報告会・交流会について

- ・ 参加者；講演会、報告会（会員 27 名、協賛団体 1 名）交流会（会員 31 名、協賛団体 2 名）
- ・ 今後は、会員・協賛団体の参加者が増えるよう働きかけていきたい。

(3) 業務委員会（篠原委員長）

① 事業報告

- ・ 信用保証協会からの情報として、協会は、国（金融庁、中小企業庁）の中小企業向け融資の保証業務（80 件／年）を行っており、中小企業診断士が業務を所掌し、経費（¥3 万／回、3 回限度）を国が負担しているが、昨年国は技術評価書の添付を義務付けており、中小企業診断士では対応が困難な状況にある。技術士にその対応を求めたいとしているが、報酬を支給する方がなく困難と思われる。
- ・ このため、協会では、産業振興センターのメンター制度（企業 OB 等による）を利用する考えのようである。
- ・ H27 経済産業省補正予算について、1/15 の説明会によれば、昨年度年度同様ものづくり関連予算が大幅に増額された。

- ・ 説明のあった 8 項目の内の「ものづくり・サービス開発」は、2/5 から実施される。
- ・ その他 (¥1309 億) は、暫定の TPP 関連補助金である。
- ・ 県からは、特に「革新的サービス開発・ものづくり開発支援」と「サービス・ものづくり高度生産性向上支援」(Iot ; Internet of Things(モノのインターネット)) の説明があった。共に中小企業への有効な支援制度であると思われる。
- ・ 経産省の補助制度は、中小企業診断士のビジネスフィールドであり、説明会には多数の中小企業診断士が出席していた。(技術士は 2 名)
- ・ 中小企業診断士は、ビジネスにつなげるため、速やかに関係企業に情報を伝えているようである。
- ・ 1/29 とちぎ食と農の展示商談会(足銀主催)において、展示物を見たが、商品化は難しい印象であった。殆どの地元中小企業では、大手企業の商品化のノウハウに追いつけないのが現状であり、支部事業として技術サポートを行う余地が多いと思われる。
- ・ 2/5 高機能・高付加価値食品開発研究部会(県産業技術センター)において、県内 8 社の食品開発の発表・展示を見たが、「フタバ食品」の物は注目すべき内容であったが、他の商品化は難しい印象であった。アイデアはあっても有力商品にしていくノウハウがない。
- ・ 今は、スーパー等で全国の商品に触れることができるので、以前のような地域商品が成立しない状況にある。
- ・ 他の分野でも同様な状況にある中小企業が多いのではないかとと思われる。栃木県が推進する重点 5 分野(自動車, 航空宇宙, 医療機器, 光, 環境)は、大企業がトップにあるピラミッド構造にあるため、直接的に技術士会(支部)が技術サポートをする余地はないと思われるが、県も中小企業支援策に力を入れているので、それに沿った大手とは異なる面でのサポートを展開できる余地があるのではないかとと思われる。
- ・ 産業技術センターが、重点 5 分野(+食品)に関連する講演会等を実施しているが、技術士会(支部)も年に一度程度参加し、話題提供によって技術士会(支部)が実施し得る技術サポートの PR ができないかと考えている。
- ・ 2/5 栃木産業振興ネットワーク推進会議(産業振興センター主催)について通知があった。県内の中小企業を支援(資金, 技術, 人材等)する諸団体(支部も含まれている)を集め、地域プラットフォームとして、中小企業を支援していこうという政策である。
- ・ できれば支部において、経営・人材育成等のテーマで、年に 2 分野(2 人)程度において、情報提供の講演が実施できないかと考えている。(県内中小企業活性化交流会経費を講師料に充てたい。)
- ・ 今後力を入れていくべき取り組みだと思う。これまでも実施してきた経緯(菅井, 柳瀬, 羽山会員)もあるので、業務委員会で今後検討してもらいたい。(小黒, 田仲)
- ・ 一人での対応は難しいので、やる気のある人達のチームで対応する必要があると思われる。(福田)
- ・ 以前は、支部内部において、自分の技術スキルを発表するような試みもあったが、今は自分以外の会員がどのような技術・経験を持っているのか分からないのが現状なので、まずは支部内部における情報交換の場が必要ではないか。(羽山)
- ・ 支部内部の情報交換については、ぜひ復活させたい。さらに外部へも情報発信にも力を入れて行きたいので、企画・研修委員会で検討してもらいたい。(小黒)

(4) 国際委員会（福田委員長）

① 浙江省科学技術訪日団について

- ・ 3/10 夜「海蔵」懇親会、メールで支部会員参加者を募る。
- ・ 3/11 8:40 県産業労働部長に表敬訪問の予定、支部長外主な役員が同行。
- ・ 3/11 その後、農業試験場視察予定。
- ・ 3/11 鬼怒川温泉泊、メールで支部会員参加者を募る。

② 第 46 回日韓技術士国際会議について

- ・ 交流員会会議(2/13)資料紹介。
- ・ 参加者募集は 6 月の技術士会会報に載せる。
- ・ 県内参加者の勧誘をお願いしたい。（50 人程度）
- ・ 他県支部等の勧誘については支部長をお願いする。
- ・ 協賛広告掲載料収入見込み約¥250 万、県支部調達¥100 万を目標としたい。
- ・ 経費収支は本部所管。（過不足は本部が対応）
- ・ 参加者数は 300 人目標。
- ・ 4 月上中旬日韓合同委員会開催予定、現地視察（1 泊 2 日 OR 2 泊 3 日）
- ・ ポスターセッションは 30 パネル程度可能。（運営委員会が主導）
- ・ 案内パンフレットを 2 月末までに支部関係者に配布したいので、参加者を募ってもらいたい。
- ・ 技術士会、支部のパンフレットも、「まちぴあ」に備えてあるので、参加者勧誘、広告募集等に利用してもらいたい。
- ・ 会員以外も参加可能なので、知人を勧誘してもらいたい。（参加費¥6,000）

(5) 環境支援小委員会（川上委員長）

① スマートビレッジについて

- ・ 栃木県スマートビレッジ研究会（今年度最終）について、2/5 報告会によれば、マイクロ水力発電の実験研究などは、コストパフォーマンス、目的性の面で実効性に疑問。
- ・ 農業試験場における太陽光パネル・LED を使ったブドウ栽培については、栽培過程における具体的な数値データの報告が不十分。
- ・ 総じて、コスト意識が希薄。

② 減災・リスクマネジメント合同会議について

- ・ 作新学院大学での減災・リスクマネジメント推進センター会議（2/4）について、防災士会稲葉理事長始め実務関係者からは的確な視点での話が聞けた。
- ・ 作新大学との関係については、「まちぴあ」が何時まで利用できるか不明なので、減災・リスクマネジメントでの稲葉防災士会理事長等の協力を通じ、スペースを借りる余地も考慮しておきたい。（小黒）
- ・ 会議等の利用には、国際交流協会が場所的にも有効である。支部が協賛団体になっているので、小委員会等の個別の会議等でも無料で利用できる。「まちぴあ」ほど混みも少ない。（黒須）

(6) 市貝プロジェクト（久芳委員長（代理川上））

① 第 9 回会合報告について

- ・ 5 項目程度が動いているが、町のより主体的な動きが望まれる。

- ・ 市貝芝桜乳酸菌プロジェクトは、技術的な対応の困難性もあり、動いていない。
- ・ 水力体験ツアーについても、当方の負担が大きかった。
- ・ 市貝プロジェクトについては、町の意向も良く見極めて取り組む必要がある。（小黑）

書記及び議事録署名人

支部長 小黑 幸市

議事録署名人 黒須 重富

議事録署名人 宮下 治

書記 黒川 昌司